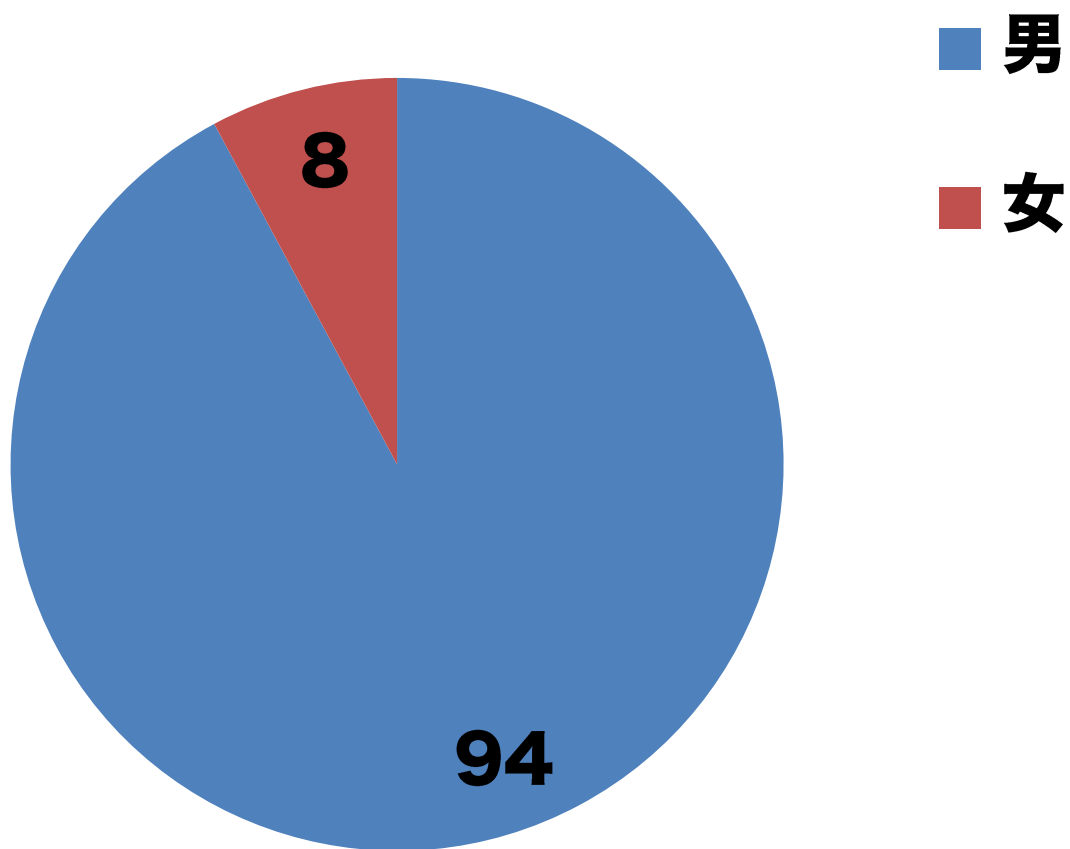


**情報処理学会 第75回全国大会 イベント企画
日本学術会議 若手アカデミー委員会 企画**

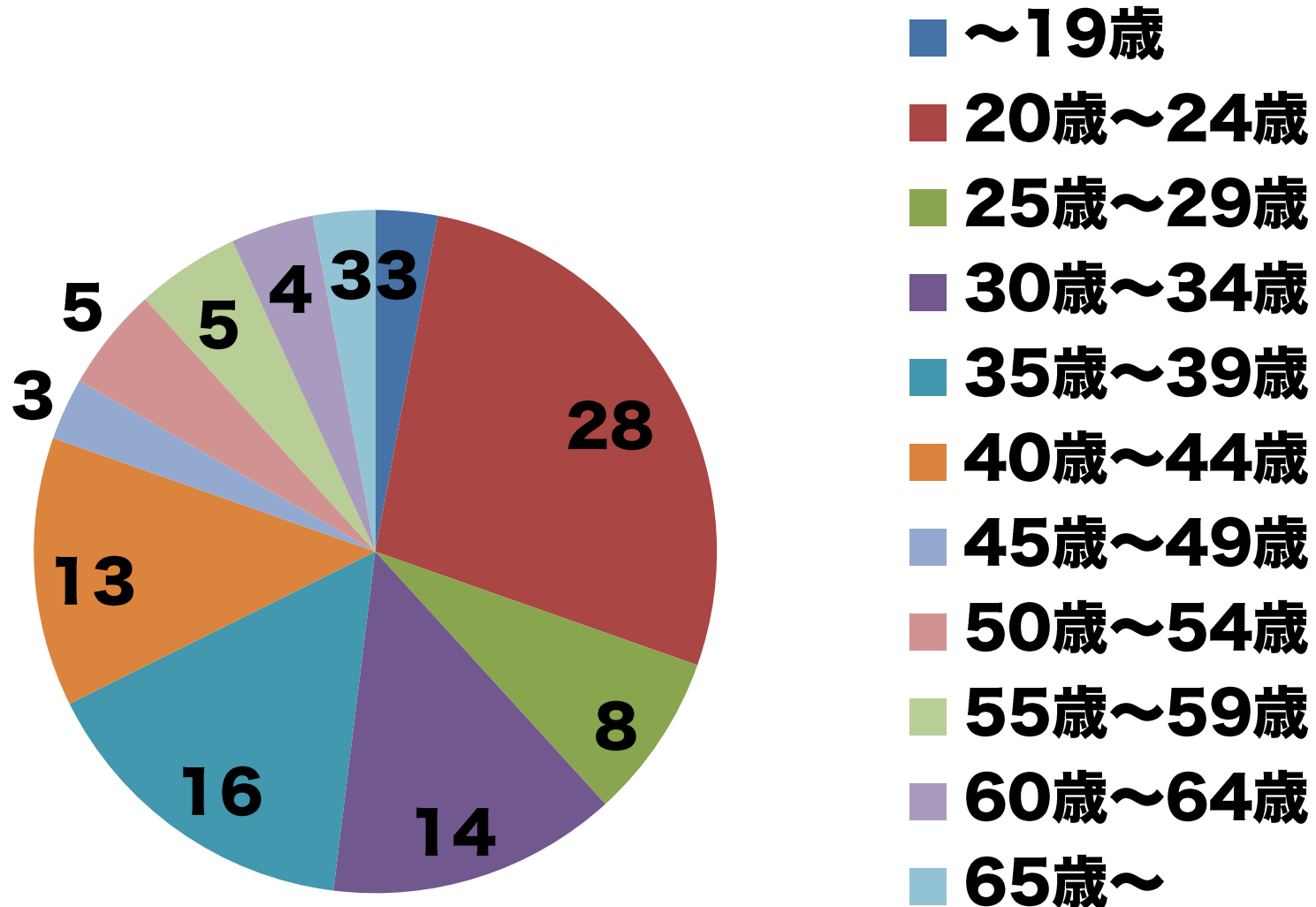
**パネル討論
「若手研究者問題と情報系」
事前アンケート結果**

**アンケート期間
2013年2月15日～3月7日
回答数102件**

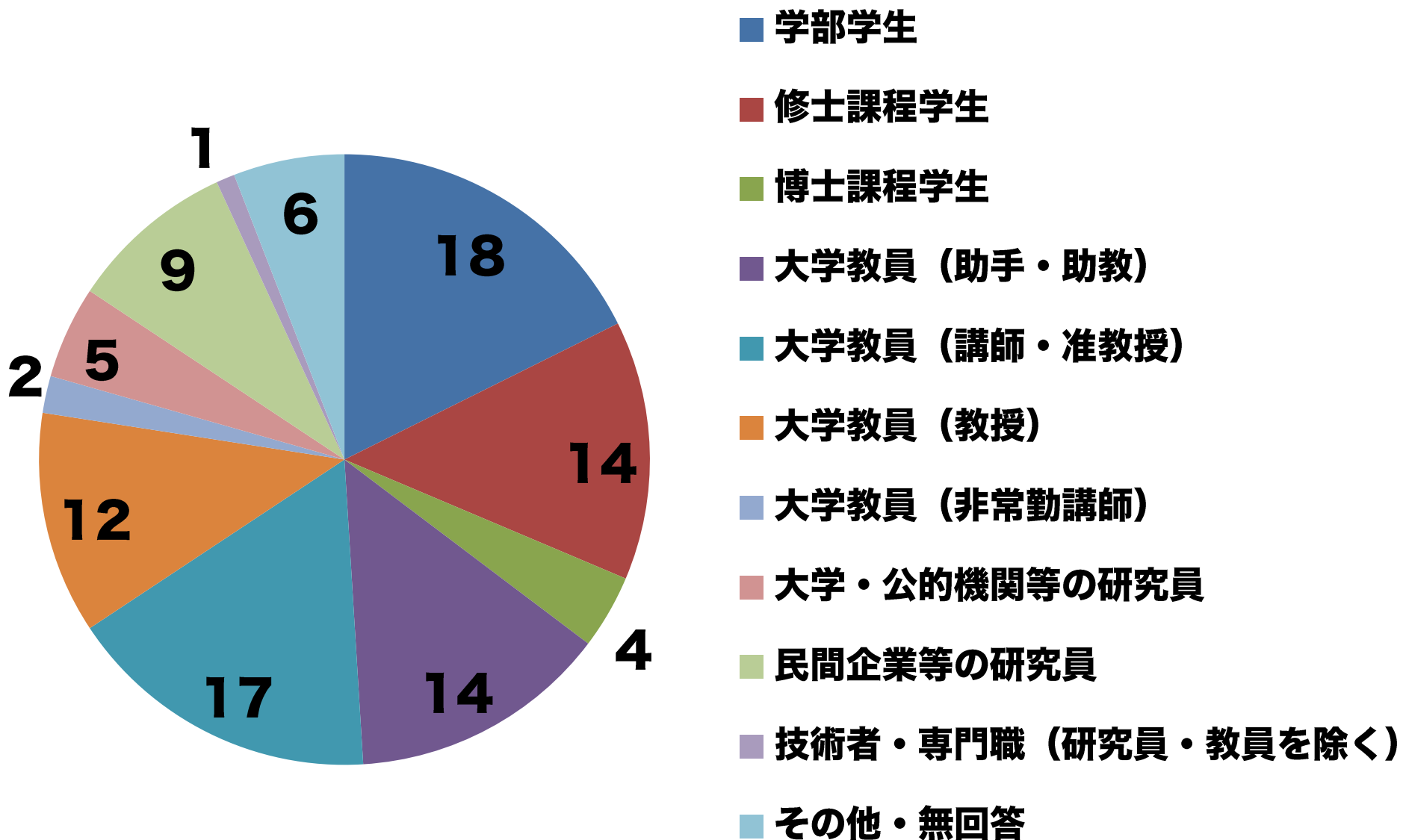
貴方の性別を教えてください。



貴方の年齢を教えてください。



貴方の身分を教えてください。

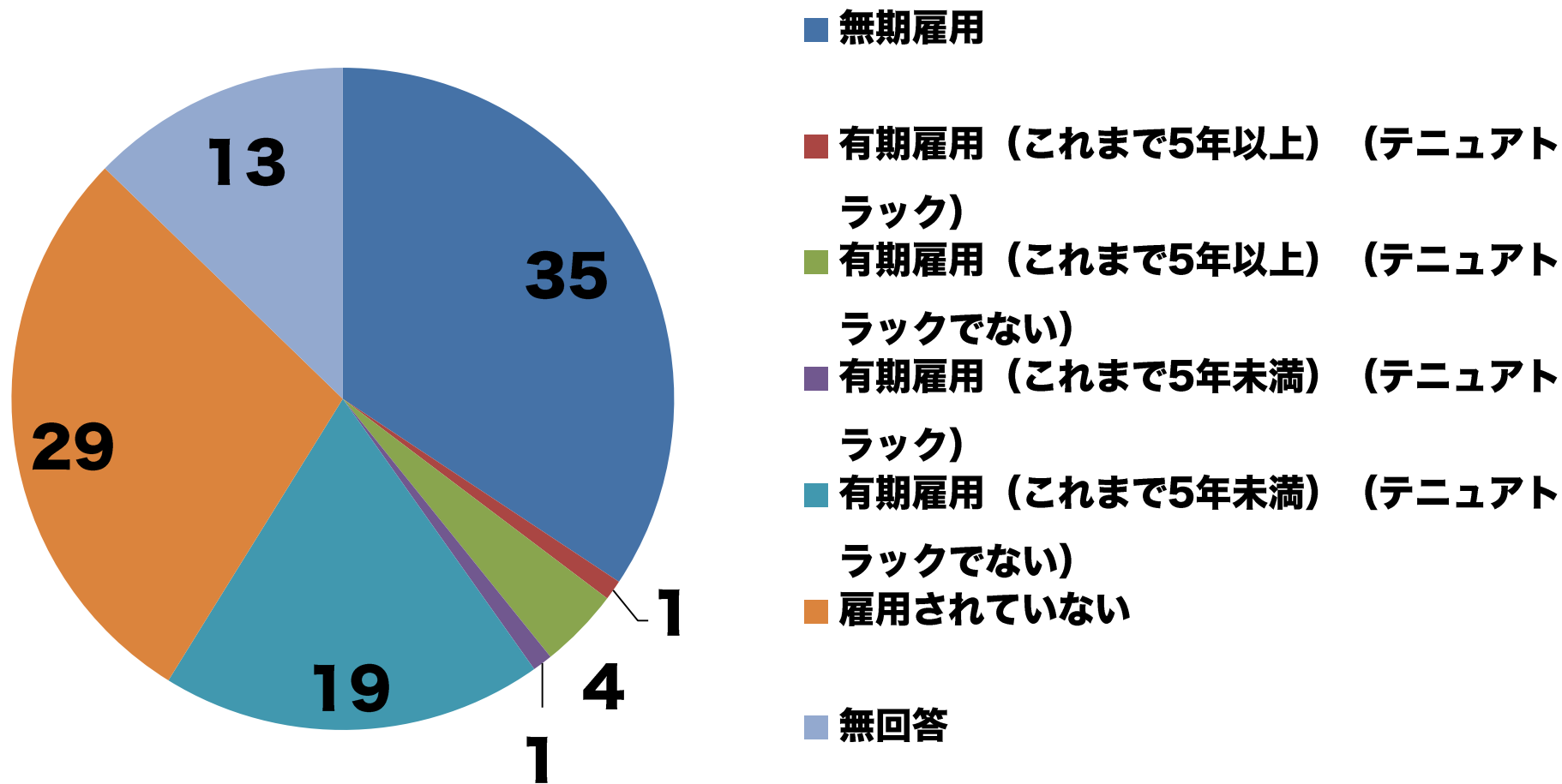


雇用されている方について、現在の雇用は有期雇用（任期つき）でしょうか、無期雇用（任期なし）でしょうか？

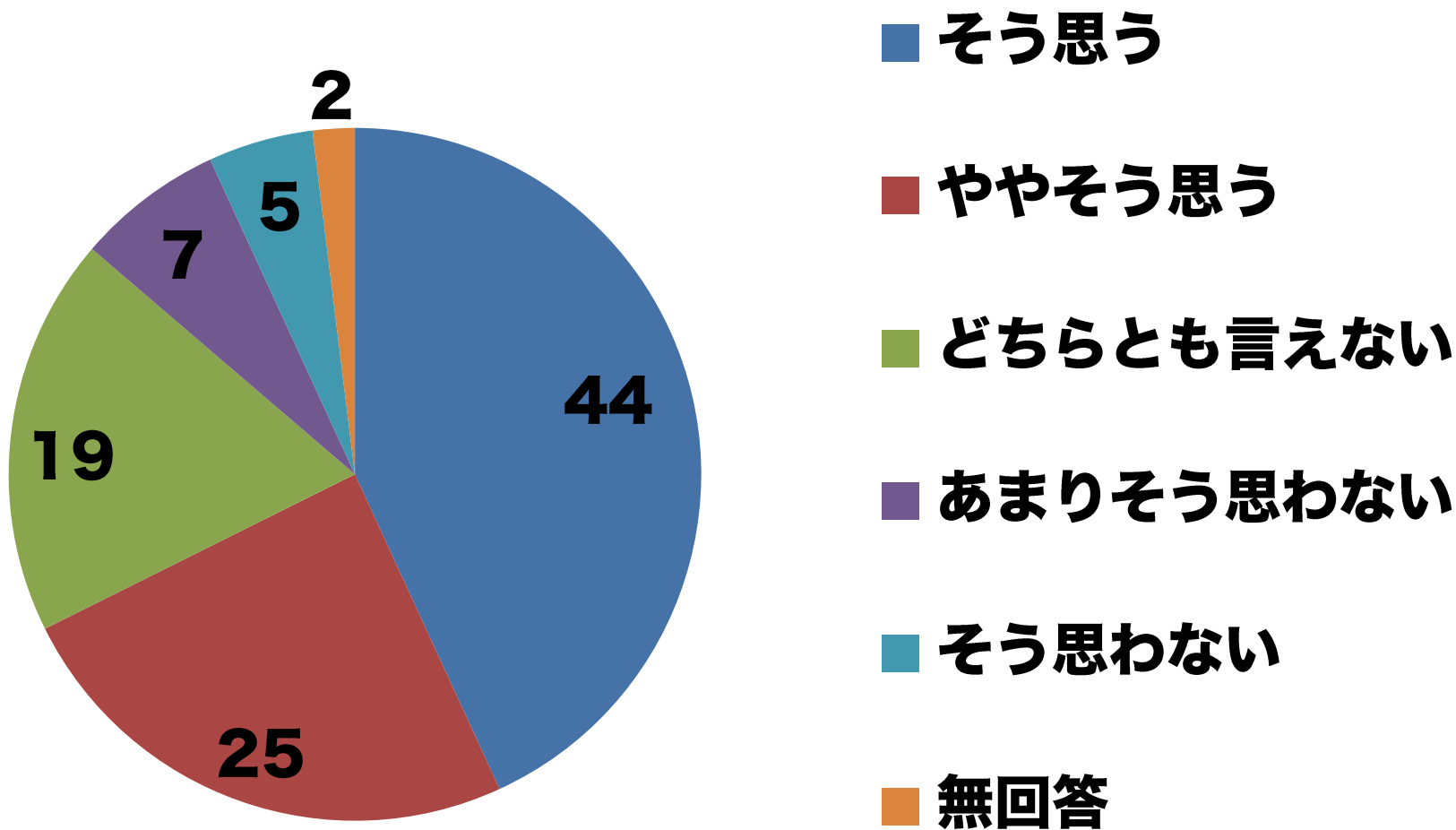
有期雇用の方について、現在の大学・企業等（研究室等ではなく法人単位）での雇用期間は

これまで5年未満でしょうか、5年以上でしょうか？

また、現在のポジションはいわゆるテニュアトラックでしょうか？



貴方の研究分野において「若手研究者問題」はあると思いますか？
ここでいう若手研究者問題とは、次の問に挙げるような、若い研究者に多いとされることがある問題を指します。

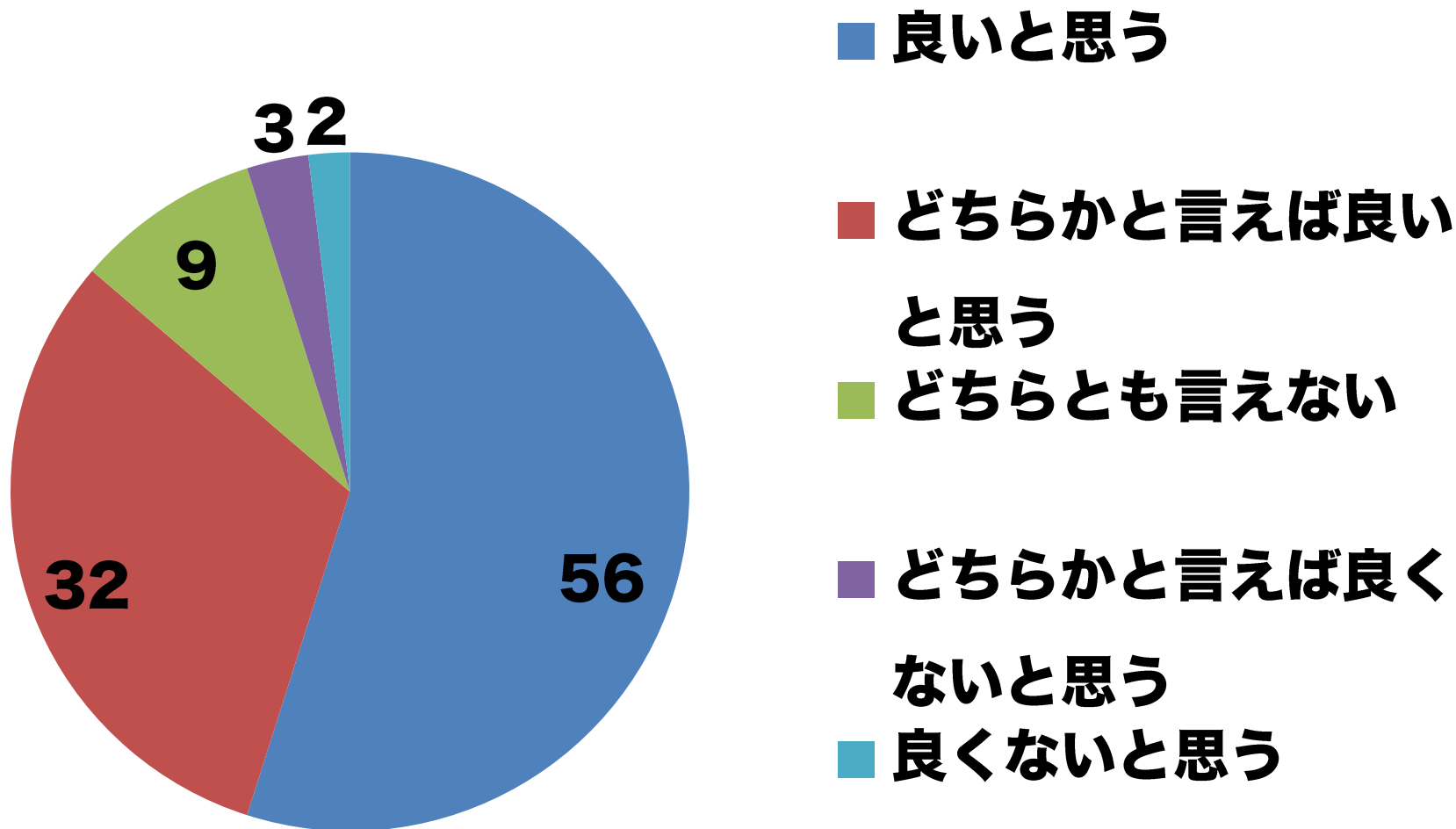


**貴方の研究分野における
「若手研究者問題」として、
よくあると思うものがあれば
すべてお選びください。**

- **研究ポストの不足 63**
- **研究ポスト以外への就職の困難 49**
- **若手研究者自身の能力の不足 44**
- **研究予算の不足 40**
- **私生活（育児等）との両立の困難 25**
- **研究テーマの自由の不足 15**

(複数回答)

今回のパネル討論のような 「若手研究者問題」に関する議論を、 学会等の場で行うことは良いと思いますか？



よろしければ理由もお書きください。

(1/4)

- 若手研究者問題は、社会問題だとも思う。この問題をちゃんと解決しないと、今後、博士に進む学生がいなくなり、日本の研究力はどんどん低下するともう。
- 学会で議論することにはそれなりの価値があるが、学会参加者の属性が偏っているため議論の円熟度に限界がある。
- こういった議論を経て至った結論を、学会等影響力のある団体が、世の研究開発機関を持っている組織に対して呼びかけていくことは、とても有意義で意味のあるものと思う。また、そうした事をしていかないと、研究を行なっていききたい若手自身の未来が極端に狭くなっていくため、必要であると考えます。
- 次世代のリーダーに必要なものは、行動のための経費とチャンスである。
- 内容による。大学院教育の致命的な欠点が大問題である。その部分に触れずして議論は無意味。先進国は大学院教育の熾烈な競争になっているが、日本ではこれを指摘する人間が極度に少ない。また、若手に厳しい意見をし、弱点を追求するような有益な議論が望ましい。体制や処遇、その他の甘やかしの議論は無意味だ！
- ここで議論しなければ、他に議論できるような場が少ないから。
- "情報共有という観点からは意義があるかと思います。ただし、「若手研究者問題」を「雇用」の観点からとらえるのであれば、学会での議論は必要条件にはなるかもしれませんが、十分条件にはならないかと認識しております。学会が「若手研究者」の「雇用主」に必ずしもなるわけではありませんので、本質的な議論をするのであれば、学会をこえた大学、行政、産業界の「雇用」に責任をもてる方々との情報共有、議論とコンセンサスの形成づくりが必要でしょう。"

よろしければ理由もお書きください。

(2/4)

- おそらく大学の学内では、このような討論は行えない。
- 自らの問題として考えるべきことであるから
- 研究者のかかえる問題の情報交換と、問題解決の糸口を見つけるために、多くの研究者が集まる学会で議論をすることは有益なので。
- 各組織では議論を興すことが難しいため。
- いつの時代にも若手研究者が抱える問題はあったと想像する。たとえば10年前とは社会風潮や研究機関など、さまざまな環境が違うために、問題解決のための手法は変化していると思う。今の世代の若手研究者が直面している問題の本質を見極めて、前向きな努力をする価値がある解決策や戦略をみんなで検討するのは良いと思う。
- このような場所が出来ることはすばらしいことだと思う
- ブツブツ文句を言うだけでは仕方ありません。学会から（適切な形で）発信していく必要があるでしょう。学会は「学」と「産」とがまじりあう媒体（メディア）なのでから。
- "一概には言えませんが、いろいろな社会条件も関係しています。まず、本人の問題があります、もっと貪欲な姿勢がほしい。また、一般的に研究のスコープが狭い気がしてなりません。大学内の研究環境も、分野や領域にとらわれない研究領域の選択がより自由になる制度の導入、いわば規制緩和です。同時に、それに応えられる指導者の存在が大きいでしょう。他方、社会・産業界側の期待や要請は、口だけではなく資金面を含めた具体的な支援を長期的に展望し、それを世の中にアピールしていくことによる状況作りが要るでしょう。"

よろしければ理由もお書きください。

(3/4)

- 全国の”当事者”たちを交えての議論が可能であるため
- 学会以外で、若手研究者問題に関する議論をする場合は、あまりないと思うため
- 学会で取り組まないと、将来的に分野によっては研究者がいなくともつながりかねないため（結果の出やすい、映える研究でのみポストが用意されることになりかねない）
- 議論することは時間の無駄である。その時間を活用し、今回集計したデータを分かりやすくまとめて、文献として引用可能な記事として公表することを切に願う。
- 博士課程時代を知っていて、いま苦勞している先輩方を見ていると他人事には思えない。
- 少子化の一方、停年が延長されると、40代が永遠の若手化するから
- ”公開の場で研究スタンスそのものについて議論することは、学会における研究のレベルにも直接影響を与えると考えられるから。”
- 学会を支える人々の問題を話さないことはありえないように感じます。
- 声を上げなければ問題の存在すら気づいてもらえませんから、このような試みは有意義だと思います。
- ”学生をきちんと教育するためには、教育する側の教員の質を維持することが必要だと思う。教員の質を維持するためには、研究や学会活動が欠かせない。特に情報系は他の分野に比べて、技術の進歩が早過ぎるので、常にブラッシュアップが必要となる。この分野の共通の問題として議論し、内容を理解しておくべきだと思う。”

よろしければ理由もお書きください。 (4/4)

- 問題を共有し、学会として解決策を考案し、社会にフィードバックすることが可能となるから。
- 学生教職員も交えて真剣に研究を目指す人の間で、J・D・ワトソンの「二重らせん」にあるようなオックスブリッジのような研究室単位の交流がよいと思う。
- "予算、ポスト、私生活との両立など、研究者に限らず、会社員、自営業者、公務員、誰もが同じように持っている課題だと思います。やりたいことをやるには、お金、時間、私生活との調整が必要です。もし、万が一、研究者だけが特に大変だと思っただけの議論であれば、認識不足かつ甘えた発想だと思います。"
- この問題を共有している人が集まる場のため。
- 学会は研究の内容に関する意見交換が目的であるため、
- 研究者は研究を行うことが仕事であると考えから。情報処理学会員でこういったことを議論することが専門である人についてはこの限りでない。また、学会等以外の場（例えば休暇をとって行う）であればこれも問題ないと思う。

今回のパネル討論において、 取り上げてほしいテーマ等が ありましたらお書きください。 (1/2)

- 団塊世代との協働で実施できる活動の領域や分担！
- なぜ大胆で大きな研究テーマにチャレンジしないのか？単に教授のお手伝いをしたり、外国の研究を後追いするだけだったり、重箱の隅をつつくような小さなことをしたり、等を止めるような意見を議論すべきだろう。大学教員の保身のために博士課程の学生が無賃労働者となり犠牲になっているのが現状だ。レベルの低い論文数でのみ業績を量る愚かな日本の大学社会にメスを入れるべきだ。
- 若者の間で、それが与えられた課題であっても、取り組む意欲が低下してきているんじゃないか？必要最低限だけやって通ろうとするものが増えている気がするのですが、これは日本の研究姿勢として不十分ではないのか？
- "「若手研究者のキャリア・プラン」について、大学は教育機関のはずだが、その役割が果たされてない。博士課程で何を身につけておくべきなのか、どういう活動をすべきなのか実は指導教員も分かっていないのかもしれない。そのため学生は「無料で使える派遣労働者」のようになってしまい、結局、何も身に着かないまま放り出される。本来は、博士課程に進学する前にキャリア・プラン等をしっかり立て、卒業後に自立した研究者となれるようにサポートするべき。"
- 研究者の社会的な存在意義について。研究者に研究成果の「ノルマ」は必要か。

(2/2)

- 『DC修了者（学位取得者）は研究者なのか？』・・・DC（ドクターコース）を修了したと言っても、自立した研究をできる人間がどのくらいいるのでしょうか？各大学がこぞってMC, DCを創設した結果、DCの力は相当「薄まって」いるはずです。指導教授の助けで何とか学位を取らせていませんか？そんなモノを（イッチョ前の）「研究者」と呼んで良いのでしょうか？このあたり、大学、産業界、そして本人の考え方を変えた方が良く思うのです。そのためには、「研究者」などという呼び方も改めた方がヨイのでは？
- "間接的には、「情報処理」という体系を研究開発という視点から、どのように発展させたら人類のために貢献できるの、という思考も必要でしょう。歴史的には日の浅い「情報処理」という学問体系です。将来性のある研究領域になることが、若手を元気づける要素にもなります。しかし、簡単に議論できるテーマではなく、継続的にいろいろな問題領域で議論を行う必要があるでしょう。"
- "文科省からの補助金欲しさに安易に修士・博士への進学を勧める、あるいはそれ以外の選択肢は邪道のように主張する一部の大学の教員・教務等の存在について。「社会に出ると博士号を持っていないと相手にされない」などと強い語気で迫ってきたが、それは限られた世界での話ではないだろうか。"
- 文理融合型のプロジェクトへ若手をどう参加させるか、議論してほしい
- 学位（課程博士）の取得と能力の問題。
- 研究成果とその経済性について。（あるいは「その研究室のHDDにはどれだけ放置された研究成果がありますか？」）
- 研究予算がないなかで、どう工夫して研究するか。
- 研究者としてのコミュニケーション能力について
- 失敗した地震予知研究が防災の名で補正予算にどれだけ投入されたか。

今回のパネル討論に関連して、 お書きになりたいことがありましたら 自由にご記入ください。 (1/2)

- "シルバー世代へ"息子たちは、遺産の羊を棺おけには入れないぜ！"子供らのけんかの種になるだけ！ 若者の学費ローンの清算や協働の資金に有効利用しろ・・・と同年代の研究者からの意見です。"
- 私の経験から大学院週誌・博士課程の教育は日本国中どこもやっていないと信じる。少しはアメリカのブランド大学に真似るところから始めてほしい。そもそも、大学院設置基準が博士課程の単位ゼロ規定としている点を改めるべき。修士の30単位も少なすぎるし、指導教員なる制度により、指導教員が多くの単位を出している制度も厳格に規制すべきだ。大学教員世界は完全に腐っている。
- "今、ポストが無いにもかかわらず博士課程の学生を増やしているツケを結局はその学生に押し付けている形になっている。よく、お笑い芸人が「年収が十万円だった」とネタにされているが、若手研究員もお笑い芸人と変わらない社会の底辺の生活困窮者である。"
- 研究者としてこれまで研究を続けてきて、これからも研究を続けていくうえで、いちばん大切にしていることは何ですか？

今回のパネル討論に関連して、 お書きになりたいことがありましたら 自由にご記入ください。 (2/2)

- "大学教員人事（公募）のたびに思う。能力はあるもののパーマネント職（テニユアトラック含む）にありつけていないが多いこと、多いこと。PDの席もなくなり、山のような非常勤講師で食いつなぐが、年齢とともに何処かに消えていく。こうした状況は、どう考えても国家的損失でしょう。たしかに、DC修了者は（研究分野の視野が狭いという意味で）融通が利かない傾向が強く、企業としては使いにくい。でも、活かしていく方法をもっと真剣に考えないと、ジリ貧ではないのか。"
- まずは、皆さんの発言に注目して、期待しています。
- "例えば東北大が公開している資料を見ても進路に「その他」が多すぎる。これでは博士に進学するつもりにはとてもなれない。"
- "研究予算不足は、若手研究者だけではない。今よりも、若手の時の方が、研究予算があった。"

**アンケートにご協力いただき
誠に有難うございました**